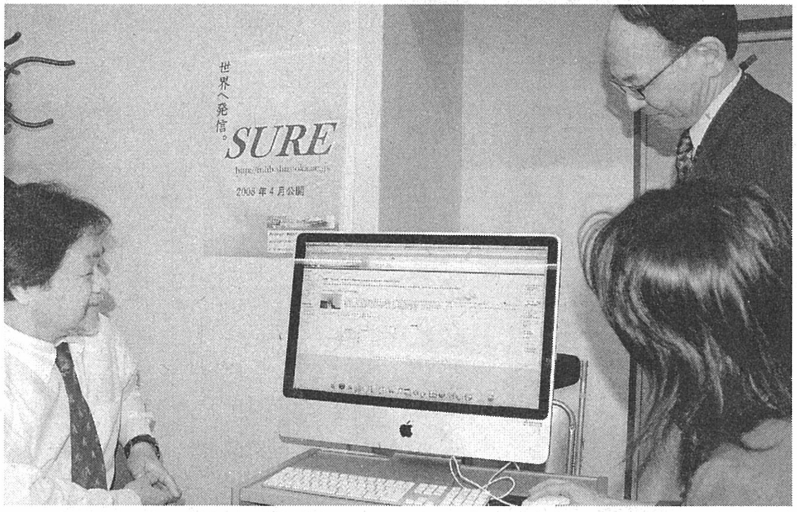
平成２０年（2008年）４月２４日（木曜日）
静岡新聞

ネットに学術論文公開

静岡大、浜松医大 独自性、ブランド向上へ

〝知的財産〟社会に還元

学術論文や研究成果をインターネット上で無料公開するシステム「リポジトリ」を導入する動きが、全国の大学や研究機関で広まっている。県内でも今春、静岡大、浜松医大が相次いで取り組みを始めた。学外に積極的に提供することで、大学の独自性やブランド力を高めたい狙いがある。



インターネットで自由に論文の閲覧を―。静岡大が公開を始めた「学術リポジトリSURE」＝静岡市駿河区大谷の同大付属図書館

静岡大は今月から「静岡大学術リポジトリSURE」を正式公開した。これまで学術論文を見るには、学術誌かその電子版を利用するのが一般的。同大付属図書館の加藤憲二館長は「大学と外部の双方向性を高める手だての一つ」と強調し、「市民や産業界に大学の知的生産物を活用してもらえるよう充実を図りたい」と話す。

リポジトリで閲覧できる内容は紀要論文や学術雑誌掲載論文、調査報告書など。著作権が発生するため、リポジトリへの保存を承諾した教員だけ登録する仕組みとした。スタート時の登録教員は約百五十人、論文千二百六十編で、例えば「駿河湾」でキーワード検索すると四十八編、「富士山」だと二十編の論文が閲覧できる。

浜松医大は三月半ばからリポジトリを試験公開し、六月までに本公開にこぎ着けたい考えだ。同大付属図書館は「近年、学術雑誌が高騰し、論文が入手しにくい状況にある。誰でもアクセスできるようにすることは大学の社会的責任」と話す。現時点ではリポジトリに蓄積している論文は三十編ほどだが、順次増やしていく。

県立大は今月、図書館情報システムを更新した際に「将来、リポジトリの導入を見据えて機械を検討した」という。

全国では四月半ばで約八十の大学・研究機関がリポジトリを稼働させている。